

ゆる遂ニ堪忍ヲ破リ神命ヲモ顧ミズ自ラ進ミテ燔祭ヲ捧  
ゲリ己ニシテ犠牲焼燼シタルキ稍クさきえる采りさゆる  
ノ所爲ヲ見怒リテ曰ク汝何事ヲ爲シタルヤ汝此過失ナク  
ンバ天神汝ノ支配ヲシテ永久ナラシメタリ然シ今日ニ至  
リ天神ハ聖慮ニ任カシテ他人ヲ撰ミ玉ハント豫言者さみ  
えるニ於テ斯クさゆるヲ譴責シタルヲ以テ陣中ノ兵士ハ  
悉ク逃レさゆるノ傍ニ止リタル者ハ僅カ六百人ニ過ギ  
ズ

五トよなと勝利ノ事

斯ク非常ノ場合ニ至リタルヲ以テトよなたハ其小性ヲ率  
ヒ陰カニ陣ヲ出デ、ひりすたん人ノ前營ヲ衝キ大ニ之ヲ  
破レリひりまさん人ハ不意ヲ打タレ周章シテ同士相打チ

稍クニシテ遁逃セリ

敵軍ヲ逐フニ當りさゆる天神ニ誓フテ曰ク暮ニ至ラズシ  
テ食フ者ハ罰サレンコトヲ望ムトトよなた毫モ父ノ誓言  
ヲ知ラス林中ヲ過ルニ當リ蜂蜜ヲ認メ鞭ヲ以テ之ヲ取り  
氣カヲ養ハンガ爲メ少シク之ヲ食ヘリ然ルニさゆる敵陣  
ヲ奪掠スルニ先ダチテ天神ノ聖慮ヲ伺ヒタルニ何ノ効驗  
ナキヲ以テ軍中ニ於テ反法ノ所業アラシコトヲ疑ヒ之ヲ  
知ランガ爲メ抽籤ノ法ニ依リヒよなたノ反則ヲ認メリ是  
ニ於テさゆる少シモ猶豫セズ死刑ノ宣告ヲ爲シテトよな  
たヲ殺サントセリ然レモ人民トよなたノ若フシテ智且ツ  
勇ナルヲ惜ミ之ガ命ヲ請ヘリ  
さゆるハ意外ノ勝利ヲ得タルヲ以テ後々其王國ヲ興セリ

是ヨリシテさゆるノ軍兵ハ向フ所ニ敵ナク戦ヘハ必ズ勝  
 テリもあぶ。あんもん。えどんノ子孫及ビそは國王。ひりすた  
 ん人并いまらえる國四隣ノ敵ハ皆さゆるノ攻撃ヲ受ケタ  
 リ就中あまれく人ハ尤モ殘酷ノ取扱ヲ受ケタリ或日さ  
 える来リテさゆるニ語リテ曰ク天神ハ汝ヲシテあまれく  
 人ヲ打タシメ人畜共ニ亡ボシテ一物モ殘スコトヲ欲セズ  
 トさゆるハ之ニ從ヒ此種屬ヲ殺ノ殆ント盡セリ然レモ其  
 王あがぐヲ助ケ且ツ最良ノ掠取物ヲ蓄ヘリさゆる凱陣ノ  
 時ニ當リテさとえる尚ホさゆるヲ責ルニ神命ニ叛キタル  
 コトヲ以テス其語ニ曰ク天神ニ從フコトハ犧牲ヲ捧グル  
 ニ優レリ汝ハ神命ヲ棄テタルヲ以テ天神ハ又汝ヲ棄ツト  
 豫言者さとえるハ此怒言ヲ放チ直チニ立去ラントシタル

ヲ以テさゆるハ其合羽ヲ扣ヘ止ント欲シテ遂ニ之ヲ破レ  
 リ老人さみえる又タ怒テ曰ク天神ハ今日此衣ノ如クいす  
 らえる人ノ王國ヲ破リ其ヲ汝ノ手ニ取リテ他ノ優レル者  
 ニ與フト其ヨリシテさとえる。あがぐヲ其前ニ出サシメ之  
 ニ語リテ曰ク汝ノ劔ハ諸母ヲシテ其子ヲ失ハシメタルヲ  
 以テ汝ノ母モ亦タ子アル可ラズト云ヒ終リテ後チあがぐ  
 ヲ殺シ之ヲ天神ニ捧ケリ

六さみえる。さゆるニ續テ王タラシムル爲メだびど  
 ヲ撰ベリ

其ヨリ後久シテ神聲アリさみえるニ語リテ曰ク汝ハ何時  
 マデさゆるノ爲メニ憂ルヤ我ハ已ニ彼ヲ棄タリ我、汝ヲ遣  
 シテベとれえむ府いざいの家ニ行カシメントス蓋シ我ハ

彼が諸子ノ中ニテ王ト爲ル可キ者ヲ撰ミタレバナリト已  
 ニシテさきえる。いざいノ家ニ行キ末子だびどノ額ニ聖油  
 ヲ灌ゲリ此ヨリシテ聖神ハさゆるヲ離レテだびどニ移レ  
 リ是ヲ以テさゆるハ鬱憂ニ沈ミ快マトシテ樂マズ或日近  
 臣さゆるニ勸ルニ音樂ヲ以テ憤怒ノ念ヲ慰メンコトヲ以  
 テさゆる之ヲ然リトシだびどハ琴ノ名人ナリト聞キ之  
 ヲ呼テ奏樂セシメタルニ能ク心ヲ慰ルヲ以テ之ヲ鍾愛シ  
 遂ニ登用シテ小性ノ列ニ加ヘリ

七だびど及ビごりあとノ事

然ルニひりまさん人段々武器ヲ取リテいもらえる人ニ向  
 ビタルヲ以テ兩軍相對陣スルノ時至レリ敵軍ニごりあと  
 ト云鬼武者アリ四十日ノ間日々兩軍ノ間ニ出テいもらえ

る人ノ一勇者ト決戦センコトヲ望メリさゆる鬼武者ノ振舞  
 ヲ怒リ命ヲ下シテ曰ク誰カアリ出テ、彼者ト戦ハ、吾、吾  
 女ト夥多ノ寶物ヲ以テ其者ニ報ヒント然ルニ一人モ之ニ  
 應ズル者ナクシテ空シク日ヲ過セリ適々どびど、諸兄ノ爲  
 ニ糧食ヲ持チテ陣中ニ来リ王命ノ下リタルヲ聞キ之ニ應  
 ゼンコトヲ望メリさゆる笑テ曰ク汝、黄口ノ小兒如何シテ  
 彼ノひりまさん人ニ敵スルヲ得ンヤトだびど王ニ答テ曰  
 ク吾、往時ニ在リテ家父ノ牧畜ヲ守リ屢々獅熊ヲ殺シタル  
 が如ク今日ハ彼ノ外教人ヲ殺サント茲ニ於テさゆる、黄銅  
 ノ甲冑ヲ以テだびどニ與ヘントセリ然ルニだびど之ヲ解  
 シテ受ケズ唯ダ五個ノ石ヲ水隈ニ拾ヒ之ト投石器ヲ携ヘ  
 テ陣前ニ出タリ鬼武者嘲テ曰ク汝杖ヲ以テ吾ニ臨ム吾ヲ

以テ犬ト爲スカ吾立トコロニ汝ノ内ヲ以テ走獸飛鳥ニ與  
ヘントだびど答テ曰ク汝ハ鎗劔ヲ持チテ吾ニ向フ吾ハ吾  
軍ノ主即チ天神ノ名ヲ以テ今日汝ニ臨ミ直チニ汝ノ首ヲ  
取リ万民ヲシテいすらえる人ノ真神ヲ知ラシメント云ヒ  
終リテだびどハ投石器ニ石ヲ挟ミ投ゲテ鬼武者ノ額ニ中  
テタリ鬼武者重傷ニ堪カ子地上ニ倒レタルヲ以テだびど  
走り行キテ其佩カヲ取り之が首ヲ落セリひりすたん人之  
ヲ見テ大ニ驚キ皆潰走セリ

ハさゆる。だびどヲ嫉ミ之ヲ苦メタル事

此勝利ヲ得テ凱陣スル時ニ當リいすらえる國諸府ノ婦女  
子群リ出テ、王ノ前ニ進ミ譟フテ曰クさゆるハ敵千人ヲ  
殺シだびどハ敵万人ヲ殺セリト此日ヨリシテさゆるハだ

びどヲ嫉ミ大ニ之ヲ忌メリ或日どびどさゆるノ前ニ於テ  
琴ヲ彈ズルニ當りさゆる突然鎗ヲ取リテだびどヲ刺ント  
セリ又タ或日さゆるハだびどニ約シテ曰ク汝若シ勇戦セ  
バ吾長女をろぶヲ以テ汝ニ與ヘントどびど此名譽ヲ得ン  
ガ爲メ万死ノ中ニ入りテ激戦セリ然ルニ王ハ其言ヲ食ミ  
テ遂ニゆるぶヲ與ヘズ又タ或日さゆるハどびどニ語リテ  
曰ク汝若シひりすたん人ト戦ヒ百人ヲ殺サバ吾次女みこ  
ーるヲ以テ汝ニ與ヘントどびど之ヲ聽キ奮戦シテ遂ニひ  
りをたん人二百名ヲ殺スニ至レリ茲ニ於テ王止ムコトヲ  
得ズミこーるヲ以テだびどニ與ヘタルモ其本心ニアラザ  
ルヲ以テ是ヨリシテ其妬心益々激烈トナリ重子テ鎗ヲ取  
リだびどヲ刺サントセリ又タ或夜さゆるハ刺客ヲ送りテ

だびどヲ其住所ニ殺サントセリミこゝる之ヲ知り其夫だ  
びどヲシテ此難ヲ逃レシメタリだびど逃ゲテのペー府ニ  
住ム大祭司何びめれつくノ家ニ行キ暫時之ニ寓セリだび  
ど去リテ後チさゆる之ヲ聞キ大ニ怒リノペー府ヲ毀チ其  
住民ト共ニ八十五人ノ祭司及ビあびめれつくヲ殺セリ獨  
リ大祭司ノ子ニテあびあたるト云フ者逃レテだびどノ許  
ニ行キ上衣ト靈籤ヲ以テ之ニ呈シ且ツ告ルニ諸種屬ハ大  
ニさゆるガ殺害ノ所爲ヲ怒リ望ヲどびどニ屬スルコトヲ  
以テセリ

九だびど。さゆるヲ免シテ殺サザル事

其後だびど逃レテをどらむノ洞穴ニ入り之ニ居リシニ  
ひりすたん人來リテせら府ヲ圍ムト聞キ之ヲ救ハンガ爲

メ其穴ヨリ出テタリ然ルニさゆるハだびどヲ捕ヘンガ爲  
メ一軍ヲ率ヒテ來リ飽マデ之ヲ追ヒ深山絶壁野牛ノ類ニ  
アラズンバ越ユ可カラザル所口ニ至レリ其後ニ至リさゆ  
る大ニ疲勞シタル時獨リ洞穴ノ中ニ休メリ此時だびどハ  
己ニ其從者ト共ニ此洞穴ニ入り其與ニ居タルヲ以テさゆ  
るヲ殺サント欲セバ固ヨリ殺スコトヲ得タリ然レモだび  
どハ之ヲ殺サズシテ唯ダ之ガ合羽ノ裾ヲ斬レリ己ニシテ  
さゆる洞穴ヲ出テ速ク去リタルモだびど。さゆるヲ呼テ曰  
ク主君さゆるヨ主君ハ何ンガ爲メニカ主君ニ向ツテだび  
どハ主君ヲ殺スノ機會ヲ待ツト云フ者ノ讒ヲ信ズルヤ尊  
父ヨ尊父ハ能ク其身ヲ見テ合羽ニ裾アルヤ否ヤヲ認メヨ  
吾ハ其裾ヲ持テリトさゆる實ニ己ガ合羽ノ裾ナキヲ見大

ニ嘆息ノ曰ク嗚呼愛子だびどヨ汝ハ吾ニ優リテ正者ナリ  
汝ハ吾ニ向ツテ唯々善ノミヲ爲スモ吾ハ汝ニ向ツテ唯々  
惡ノミヲ爲スト

此時ニ當リきこえる薨去シタルヲ以テ全いすゝえる人相  
集リテ之ヲ哭シ之ヲ葬レリ

然レ氏だびどハ絶ヘズ所々ニ流浪シテ遂ニはらんノ荒野  
ニ退ケリ然ルニはらんノ荒野ヲ去ルコト速カラヌ所ニま  
をんノ荒野アリテ富豪あはるト云フ者之ニ住ミ極メテ吝  
嗇ナリ或日だびど從者ノ中ヨリ十人ヲ撰ミ之ヲ使者トシ  
ヲなばるノ許ニ遣シ之ヲシテ云ハシメテ曰ク吾、毫モ足下  
ノ牧人、畜類ヲ害セズ是ヲ以テ轄ク吾ニ多少ノ食糧ヲ貸與  
セヨト然ルニあむる使者ヲ遇スルコト至テ厚カラザルヲ

以テ其妻あびがいるナル者だびどノ怒ヲ抑ヘンガ爲メ驢  
馬ニ食物ヲ乗セテ来リ言葉ヲ和ゲ禮ヲ厚フシテだびどノ  
足下ニ伏シ稍ク其怒ヲ鎮メリ其ヨリ十日ヲ經テあはる死  
シタルヲ以テだびど其妻あびがいるヲ娶リテ婦ト爲セリ  
さむるハ怒ヲ蓄ヘ怒ヲ含ミテ轄クモだびどヲ忘レザリシ  
がだびど。じふノ荒野ニ在リト聞キ之ヲ打タンガ爲メ急ギ  
三千人ヲ率ヒ走り行ケリ茲ニ於テ役々だびど其敵さむる  
ヲ助クル機會至レリ或夜だびど敵陣ヲ襲ヒテ王ノ居幕ニ  
入りタルヲ以テ王ノ生命ハだびどノ掌中ニ在リタリ然レ  
氏だびどハ王ヲ殺サズシテ唯ダ其水呑盃ト地上ニ立テル  
枕邊ノ鎗トヲ奪ヒ去リテ近傍ノ山上ニ登リ王ノ大將あふ  
ねゝるヲ呼テ曰ク汝ハ何ノ故ヲ以テ汝ノ大王ヲ守ラザル

ヤ人アリ来リテ王ヲ殺サントセリ見ヨ王ノ水吞盃ト鎗ハ  
今何處ニ在ルヤト此言ヲ聞キさゆる始メテ目醒メだびど  
ノ聲ナルコトヲ認メ其寛仁大度ナルニ耻ぢ過ヲ悔ヒ身ヲ  
責メテ敵人だびどノ成功ヲ豫言セリ

十さゆる薨去ノ事

だびどハ更ニひりまたん人ノ國內ニテありまト云フ者ノ  
所ニ退キタルヲ以テありはハ一まれ一府ヲ以テだびど  
ニ與ヘリだびど此處ニ在リテいまらえる國王ノ凶報ヲ得  
ルニ至レリ適々ひりまたん人復々大舉シテいまらえる國  
内ニ進入スルニ當リ神約地南方ノ諸種屬ハのべ一府諸祭  
司ノ被害ヲ怒リ武断政府ノ所置ヲ厭ヒ少シモ防禦ニ盡力  
セザルヲ以テ敵人ハ進ミテせらえるノ廣野あへ一ノ傍マ

テ来レリ之ヲ聞キさゆるハ全軍ヲ率ヒせるぼえ山ニ出テ  
陣ヲ布ケリ然ルニさゆるハひりまたん人ノ軍隊ヲ見テ  
大ニ其夥多ナルニ驚キ天神ノ聖慮ヲ伺ヒタルモ天神ハ夢  
ニ顯ハレテさゆるニ答ルコトモナク祭司ヲシテ聖慮ヲ傳  
ヘシムル一モナク又々豫言者ヲシテ聖慮ヲ云ハシムルコ  
トモナキヲ以テさゆるハ止ムコトヲ得ズあんどをる府ノ  
希臘尼ニ依頼シテさきさゆるヲ現ハサントヲ乞ヘリ已ニ  
シテ豫言者さきさゆるノ幽靈現ハレタルモ重子テさゆるニ  
告ルニ一族ノ患難ヲ以テシタルノミ是ニ依リテ翌日ニ至  
リ初戦ヨリシテいまらえる人皆敵軍ノ爲メニ破ラレさゆ  
るノ三子モ亦タ茲ニ死セリ王モ重傷ヲ負ヒ敵人ノ生捕ト  
爲ランコトヲ恐レ小性ニ命ジテ其首ヲ落サシメントセリ

然ルニ小性ハ敢テ此任ニ當ラザルヲ以テさゆる自ラ其劔  
ニ伏シテ死セリ

其ヨリ三日ヲ經テ年少ノあまれく人アリ来リテだびどニ  
語ルニいもらえる人ノ不幸ヲ以テス其語ニ曰クさゆるハ  
其兵ヲ失ヒ自ラモ重傷ヲ負ヒ地ニ倒レテ將サニ死セント  
スル時ニ當リ吾幸ニシテ其傍ヲ通り之ガ求メニ從ヒ其首  
ヲ落シテ吾カ功トセリトだびど之ヲ聞キ少シモ喜ベル色  
ナク反ツテ天神ノ聖油ヲ塗リタル者ニ手ヲ觸レタルコト  
ヲ怒リあまきく人ヲ殺セリ且ツだびどハ悲歌ヲ作りテ哀  
悼ノ情ヲ歌ヘリ其歌ニ曰ク

嗚呼いもらえる人ヨ止リテ彼ノ山中ノ死者ト負傷者ヲ  
見ヨ何ヲ以テカ強者亡ビタルヤ○せるぼえ山ヨ汝ノ頂

上ニハ以後、雨露降りテ之ヲ濡サヌコトヲ望ム汝ノ岡ハ  
以後供物ヲ生ゼヌコトヲ望ム蓋シ強者ノ楯モさゆるノ  
楯モ皆其處ニテ倒レタルヲ以テナリ○じよなとノ矢ハ  
放テバ必ラズ中リ決シテ後ニ歸ラズさゆるノ劔ハ拔ケ  
バ必ラズ斬リ決シテ徒ラニ抜カズ○生キテハ共ニ愛ス  
可ク且ツ尊ブ可キさゆる。じよなとノ二人ハ死スルモ必  
ラズ離レズ杖等ハ驚ヨリモ早ク獅子ヨリモ猛ナリ○鷲  
呼賢弟トよあとヨ汝ノ死ハ大ニ吾ヲシテ悲哀セシム吾  
汝ヲ愛スルノ深キハ恰モ母其一子ヲ愛スルノ深キニ似  
タリ○然ルニ何ノ故ヲ以テ強者ハ亡ビ又タ何ノ故ヲ以  
テ猛戦者ハ滅シタルヤ



迎る櫃だ  
スむヲび  
ル府ぜど  
圖ニり盟  
奉ざ約



第十二章

○どびどノ事

一だびど。いまぼせつとト戦争ノ事

さゆる己ニ薨去シタルヲ以テトだノ種属ハだびどヲ撰ミ  
テ王ト爲セリ然ルニいまらえる國他種属ノ者ハさゆるノ  
子いまぼせつとヲ撰ミテ王ト爲セリ此ヨリシテ二人ノ競  
争者ハ其兵卒ヲ率ヒテ断ヘズ激烈ナル戦争ヲ爲セリ此戰  
争ニ於テ有名ノ兩將アリ一人ハだびどノ將ニシテ何ぶね  
ーるト云ヘリ或日あぶねーる。トよあぶノ弟あざねるト戰  
ヒ打チテ之ヲ殺セリ蓋シあざえるハ至ツテ駸足ノ者ニテ  
山鹿ト競争シ之ニ勝チタル者ナリ然ルニ此後いまぼせつ  
ト其名將あぶねーるニ向ツテ無禮ヲ加ヘタルヲ以テあぶ

ねーるハ大ニ怒リ怒チ去リテいすぼせつとヲ棄テだびど  
ニ就テ之ト約スルニ全いまらえる人ヲ舉ゲテ其配下ニ置  
カン一ヲ以テセリ是ヲ以テだびど重クあふねーるヲ用ヒ  
之ニ權勢ヲ與ヘリトよあふ之ヲ見テ大ニ何ふねーるヲ嫉  
ミえふるんノ府門ニ於テ之ヲ殺害セリ此時ニ當リだびど  
未ダ其權カ固カラザルヲ以テ此殺害人ヲ罰スルコトヲ得  
ズト雖氏大ニ葬禮式ヲ盛ニシテあふねーるヲ哀惜スルノ  
情ヲ見ハシ以テ之ニ榮譽ヲ與ヘリ

此ヨリ久シカラズシテ浪人輩ノ二酋長ハいまぼせつとヲ  
殺シテ其首ヲだびどノ許ニ持チ来リ以テ賞品ヲ食ラント  
セリだびどハ固ヨリ幾ヲ重ンズル者ナルヲ以テ大ニ二酋  
長ノ所爲ヲ怒リ立トコロニ之ヲ殺セリ然レ氏此事變アリ

タルヲ以テ王位ハ全クだびどニ歸シ諸種屬ハだびどヲ認  
メテ王ト爲セリ

二一をん府政取ノ事

だびどハ己ニ撰バレテ王ト爲リタルヲ以テ其榮譽ニ報ン  
ガ爲メ急ニ勲功ヲ立ント欲シ一をんノ丘上ニ於テぜび人  
ノ城砦ヲ打テ遂ニ之ヲ奪ヘリ且ツひりびたん人從タ兵器  
ヲ執リテいまらえる人ニ向ヒタルヲ以テだびど之ヲ打テ  
テニ戰ニ勝チ其諸府ヲ取リテ之ニ火セリ此戰爭ニ於テだ  
びどハ一時敵軍ノ圍ム所ト爲リタルヲ以テ大ニ渴シ覺ヘ  
ズ一聲叫ンテ白ク嗚呼誰カ有リテベとれえむノ地ニ行キ  
水溜ノ水ヲ汲ミテ少シク吾ニ與ヘヨト此時ニ當リいまら  
える人ノ中ニテ尤モ猛キ三人ノ勇者せまハあむえれあざ

る。ざんほト名クル者だびと王ノ傍ニ在リ王ノ言ヲ聞キ直  
チニ走リテひりまたん人ノ陣ヲ過ギ水溜ニ於テ水ヲ汲ミ  
之ヲ持チ歸リテ王ニ呈セリだびと之ヲ見叫ンテ曰ク吾此  
勇者ノ血ヲ飲ムハ神慮ニ叛ケリト云ヒ終リテ水ヲ天神ニ  
捧ゲ之ヲ地上ニ注ゲリ

此時盟約櫃ハ尚ホガバあ府ノ祭司あびまだふノ家ニ在リ  
タルヲ以テだびどハ之ヲせりざるむ府ニ移サント欲セ  
リ蓋シせりざるむ府ハ布教并ニ施政ノ中心ナルヲ以テ盟  
約櫃ト新王國ハ互ニ相保持セント欲シタルヲ以テナリ  
是ニ於テ新ニ車駕ヲ作り之ニ盟約櫃ヲ乗セ何びまだふノ  
子をざ及び其諸弟ヲシテ之ヲ導カシメ全いまらえる人ハ  
或ハ弦琴ヲ奏シ或ハ鐘、大鼓ヲ打チテ之ニ從へリ然ルニ途

次牽牛、俄カニ車ヲ退ケ盟約櫃ヲシテ殆ト覆ラシメタルヲ  
以テをざ之ヲ抑フルガ爲メ手ヲ出セリ此時天神ハ直チニ  
をざガ信心薄キヲ罰シ之ヲ殺シタルヲ以テだびどハ大ニ  
驚キ先ツ盟約櫃鎮座ノ場所ヲ造リ其後之ヲせりざらむ府  
ニ奉迎セント思ヒ之ヲせと府内あべどらノ家ニ昇カシメ  
暫ク茲ニ鎮座セリ然ルニ幾クモナクシテ天神何べだらノ  
家ニ幸福ヲ降シタルヲ以テだびど王思ラク是レ遷座ス可  
キノ時ナリト茲ニ於テもん城中ニ神幕ヲ設ケ大ニ儀式  
ヲ張リテ盟約櫃ヲ茲ニ導ケリ其途次だびど王ハ自ラ麻製  
ノ上衣ヲ着、盟約櫃ノ前ニ進ミ講ヒ且ツ踊リテ天神ノ榮譽  
ヲ稱讚セリ

しをん府ニ設ケタル神幕ハ盟約櫃ノ假宮ニ過ギザルヲ以

テだびど其身ハ天神ヨリモ華美ノ住所ニ居ルコトヲ快ト  
セズ或日豫言者あたんニ語りテ曰ク見ヨ吾ハ名木ヲ以テ  
構造シタル宮殿ニ住ミ天神ノ盟約櫃ハ天幕ノ下ニ居リ玉  
フト次テだびど大堂ヲ建テ天神ニ捧ゲンコトヲ欲セリ然  
ルニ豫言者あたんハ之ヲ止メ大堂建立ノ業ヲ以テ其子ニ  
殘サンコトヲ告ゲタリ

三どびど勝利ノ事

だびど己ニ多クノ勝利ヲ得タリト雖氏いもらえる人ハ尚  
ホひりまさん人ノ爲メ二年々貢ヲ出セリ然ルニだびどハ  
復タひりまさん人ト戦ヒ遂ニ人民ヲシテ奴隸ノ域ヲ脱セ  
シメタリ此時だびどハ一戦シテひりまさん人ヲれいむ  
ノ谷間ニ破リ再戦シテ之ヲがせしめるノ城壁マテ逐ヒ行キ

遂ニひりまさん人ヲシテがどノ地ヲ失ハシムルニ至レリ  
其後だびどハもあぶ人ヲ打チテ其半数ヲ亡ボシ餘ノ半数  
ヲシテ年々貢ヲ出サシメタリ又タひりまさん人もあぶ  
人ノ間ニ當リテ他ノ人民即チあまれく人トいじめし人住  
ミ居リシガ皆だびどノ爲ニ打レテ遂ニ之ガ属國ト爲レリ  
然ルニだびどノ尤モ恐ル可キ敵ハろバ國王あどらあざる  
ナリだびど之ガ軍ヲうらふらつと河邊ニ挫キ又タ之ヲ接  
ケンガ爲メだま府ヨリ来リタル兵卒二万二千人ヲ殺シ遂  
ニしりえ國ノ中だま府ヲ從へ之ニ番兵ヲ置ケリはまと國  
王とゆハそバ國王ノ敵ナルヲ以テそバ國王ガ其同盟國ト  
共ニ敗北シタルヲ聞キ其子ヲ遣ハシテ珍奇ノ寶物ヲ打勝  
人だびどニ贈レリだびど此贈物ヲ以テ最良ノ奪取物ト共

ニ天神ニ捧ゲリ  
 王國ノ北方ニ於テハ已ニ攻撃ヲ終ヘタルヲ以テだびど今  
 ハいもらえる人ノ兵力ヲ舉ゲテ南方ノ人民ニ向ヒ之ヲシ  
 テ服従セシメント欲シさりぬノ谷間ニ於テ一万八千ノい  
 じめ一人ヲ殺シ且ツ紅海ノ通路ヲシテ吾ガ有タラシメン  
 ガ爲メいじめ一人ノ國內ニ於テ到ル處ニ番兵ヲ置ケリ  
 此時いもらえる國ノ東方ニ當リ強盛ノ人民即チあんもん  
 人尚ホ獨立ヲ保テリ其王ニテハんのんと云フ者大軍ヲ募  
 レリ其内ニハしりえ國人及び其他ノ同盟國ヨリ送リタル  
 三万三千ノ兵卒加ハリ居レリ然レモだびどノ二將じよあ  
 ぶ及び其弟あびざいノ得タルニ勝利ハ遂ニ此同盟軍ヲ破  
 レリ茲ニ於テしりえ國人今ハ其身ヲ防禦センガ爲メトウ

るだん河ヨリうーふらつと河の間ニ住ム諸國民ト共ニ強  
 大ノ同盟軍ヲ作りあどらあざるを以て倭タ之ガ長ト爲セ  
 リ蓋シ此同盟ニハしりえ國河岸ノ人民ニシテうーふらつ  
 と河ノ外ニアル者モ来リ加入セリ  
 此時だびど自ラ出デ、其軍ヲ指揮セント欲シテトウるだ  
 ん河ヲ過ギえらんノ地ニ於テ敵軍ト戦ヒ七百ノ戰車ヲ破  
 リ四千ノ騎兵ト併セテ敵ノ大將ヲ殺セリだびどハ此勝利  
 ニ由リテ廣大ノ土地ヲ得、之ニ住ム諸王ヲシテ其配下ニ屬  
 サシメタリ

此時ニ至リ四隣ノ敵ハ殆ト亡ビあんもん人ヲ除キ他ニ憂  
 ル所ナキヲ以テだびどはいもらえる全國ノ兵ヲ舉ゲ將校  
 ト共ニ之ヲじよあぶニ附シあんもん人ノ首府らバつとヲ

國マンが爲メ之ヲ送ヒリ已ニシテ首府ヲ攻メ將サニ落ン  
トスルニ及ビだびと至リタルヲ以テ首府ハだびとノ目前  
ニ落チ其住民ハ非常ノ苛責ヲ受ケテ亡ビタリ  
四べさべー及ビゆりノ事

然ルニだびと此後せりざるむ府ニ在リテ二重ノ罪ヲ犯セ  
リ或日だびと宮殿ノ屋上ニ登リ隣家ノ庭前ヲ臨ミテ築山  
ノ上ニ一人ノ美婦入ヲ認メリ是レ即チだびとが勇將ノ一  
人ニテゆりト云フ者ノ妻ベさべーナリ是ヨリシテだびと  
ベさべーヲ戀ヒ慕フテ止マズ遂ニ此情慾ヲ遂ゲンガ爲メ  
ゆりヲヒよあぶノ陣ニ遣シトよあぶニ命ジテゆりヲ亂軍  
ノ中ニ入ラシメ敵人ノ手ヲ借リテ之ヲ殺サントセリ是ニ  
依リテ王一封ノ書ヲ認メゆりヲノ之ヲヒよあぶノ陣ニ持

チ行カシメタリ己ニシテゆり戦死セリト聞キだびと王ハ  
其妻ベさべーヲ娶リテ妃ト爲シ間モナク一子ヲ得タリ蓋  
シ王ハ結婚前ニ於テ己ニベさべート奸通シ居タルヲ以テ  
此子ハ結婚前ニ姪ミタル者ナリ始メハ天神此罪ヲ罰セズ  
空シク一年ヲ經タルモ遂ニ豫言者なたんヲシテだびとノ  
前ニ至ラシメタリ

なたん王ニ語リテ曰ク或府ニ二人ノ男アリ一人ハ富者ニ  
シテ一人ハ貧者ナリ富者ハ夥多ノ牛羊ヲ有スルモ貧者ハ  
唯ダ若キ牝羊一頭ヲ有スルノミニシテ之ヲ其家ニ養ヘリ  
此牝羊ハ貧者ノ諸子ト共ニ成長シテ糧ヲ貧者ノ掌上ニ食  
ヒ水ヲ貧者ノ盃ニ吞ミ卧スル時ハ其懷ニ入レリ適々外客  
アリテ富者ノ所ニ采レリ富者此客ヲ饗應センガ爲メ其牛

又ハ其羊ヲ屠ラズシテ貧者ノ牝羊ヲ盜ミ之ヲ殺シテ外客  
 ニ食ハシメタリトだびど之ヲ聞キ憤然怒リテ曰ク此者ハ  
 正ニ死スヘキ者ニシテ盜品ノ七倍ヲ以テ被害者ニ返サザル  
 ヲ得ズト豫言者オタル言葉ヲ正ノ後夕曰ク此者ハ即チ陛  
 下ナリ天神宣ヘルコトアリ曰ク我汝ニ與ルニ己ニいまら  
 える人及ビトだんヲ以テセリ若シ汝此ニ種屬ヲ以テ未タ  
 足ラズト爲サバ他ノ土地ヲ以テ之ニ加ヘン然ルニ汝ハ何  
 故ヲ以テ我誠ヲ卑ミヨリノ妻ヲ盜ミヨリヲシテ偶像神あ  
 んもんノ子孫印チえトぶト人ノ劔下ニ倒レシメシヤ是ヲ  
 以テ今ハ其劔汝ノ家ヲ離レズ不幸ハ汝ニ逆ツテ汝ノ家ヨ  
 リ出テ汝ハ死セザルモ汝ヨリ生レタル子ハ死セントどび  
 ど之ヲ聞キテ大ニ恐レ大齋シテ天神ヲ祈リタルモ天爵ハ

遂ニ降り此ヨリ七日目ニシテ王妃ベきペーノ産ミタル子  
 死セリ

## 五あぶさるんノ事

天爵己ニ一度降りテだびどノ子一人ヲ殺シタルモ亦重子  
 テ他ノ天爵降り来レリだびどノ長子ニシテあんもんと云  
 フ者アリ異母妹たまるヲ戀ヒテ之ニ強姦セルヲ以テたま  
 るノ同母兄あぶさるんノ殺ス所ト爲レリあぶさるんあん  
 もんヲ殺シテ後チせつしる國王ノ傍ニ逃レ居ルコト三年  
 ニシテ異心ヲ抱キ本國ニ歸リテ亂ヲ起セリ茲ニ於テどび  
 ど王止ムコトヲ得ズ忠臣若干名ヲ從ヘ難ヲ避ケテ他ニ逃  
 レリ途次さゆるノ種屬ニシテせめいと云フ者どびどニ向  
 テ石ヲ投ゲ且ツ咀フテ曰ク出テヨ出テヨ汝ハ汚人ナリ汝



ハ鬼人ナリ汝ハさゆる家ノ血ヲ流シタルヲ以テ天神ハ復  
 タ其血ヲ以テ汝ノ上ニ降スト此言ヲ聞キあびざいハ大ニ  
 怒リせめいヲ殺サント欲セリだびど之ヲ止メテ曰ク彼ヲ  
 殺スコトナク自由ニ咀ハシメヨ恐ラクハ天神アリテ吾ガ  
 報讎ヲ顧ミ且ツ吾ガ今日受ケタル咀言ノ爲メニ他日吾ニ  
 幸福ヲ與ヘ玉ント

己ニシテあぶさろんハぜりざるむ府ニ入りテ豫言者あた  
 んガ曾テだびどニ告ゲタル天罰ヲ露セリ然レモあぶさろ  
 んハ其將あしとへーるノ策ヲ入レテ早ク父王ヲ逐ハザリ  
 シヲ以テ遂ニ好機會ヲ失ヒ父王ヲシテ容易クトうるだん  
 河ヲ渡ラシメタリだびど己ニヒうるだん河ヲ渡リ夥多ノ  
 兵ヲ集メテ戦ヲえふらいむノ叢林ニ開キ大ニあぶさろん

ノ兵ヲ破リテ二萬人ヲ戰場ニ倒セリあぶさろん卑賤逃レ  
 テ茂リタル檜樹ノ下ヲ過ルニ當リ鬚ヲ其枝ニ懸ケテ中間  
 ニ下ガレリ一卒アリ之ヲ見テトよあぶさろんニ告ゲタリトよあ  
 ぶ急ニ走り行キ王ノ誠言アルニモ聞ラズ投槍三本ヲ以テ  
 あぶさろんヲ刺セリだびどあぶさろん死セリト聞キ逆子  
 ト雖モ父子ノ情アルヲ以テ大ニ之ヲ慟哭セリ且ツ屢々自  
 語シテ曰ク愛子ヨ愛子ヨ吾何ノ故ヲ以テ汝ニ代リテ死セ  
 ザリシヤト

## 六だびど晩年ノ事

全いまらえる人復タだびどノ配下ニ歸セントスルニ至リ  
 ヒうるだん河岸ニ於テ諸種屬ノ爭論起レリ蓋シ諸種屬ハ  
 相争フテ王ヲ渡ラシメタルノ名譽ヲ得ント欲シタルヲ以

テナリ此時ハんじやゆん種属ノ者ニテセバト云フ者アリ  
 喇ハヲ吹キ叫ンテ曰ク吾等ハいざいの子ニ就キテ全ク望  
 ヲ絶テリいまらえらる人ヨ足下等ハ各々歸リテ其居幕ニ入  
 ル可シト此言ヲ聞キ夥多ノいすらえらる人ハせむニ從ヒテ  
 其居幕ニ歸レリ茲ニ於テだびどハ急キぜりさむる府ニ歸  
 リ直チニ軍隊ヲ遣シテ此亂臣輩ヲ打タシメタリ蓋シ此時  
 已ニ他種属ニ於テヒどノ種属ヲ嫉ムノ心緒ヲ見ハセリ己  
 ニシテ王師到リセバノ匿レタル府ヲ圍ミタルヲ以テ其住  
 民ハセバノ首ヲ刻テ府壁ノ上ヨリ之ヲ投ゼリ  
 ひりまたん人役タ起リテ兵器ヲ取りいまらえらる人ニ向ヘ  
 リ茲ニ於テだびど四度軍ヲ出シテひりまたん人ヲ打チ屢  
 ヲ勝敗ノ後チ遂ニ之ヲ從ヘリだびど茲ニ始メテ強敵ひり

またん人ヲ服シタルヲ以テ祝歌ヲ作り謡フテ曰ク  
 天神ハ吾ガ城砦ナリ又タ吾ガ權ノ存在スル砦石ナリ○  
 惡事ハ吾ニ向テ激水ノ如クニ流レリ然ルニ吾一叫シテ  
 天神ヲ呼ヘバ天神之ヲ聞キテ天地ヲ混亂振動セリ○天  
 神降りテ諸天使ノ昇ク所ト爲リ風ノ翼ヲ以テ飛揚セリ  
 ○天神矢ヲ放テハ吾敵ハ散リ天神光ヲ發セバ吾敵ハ恐  
 レテ倒レリ○天神怒リテ一嘘スレハ海ハ開ケテ其底見  
 ハレ地ハ出テ、其基ヲ見ハセリ○天神ハ其手ヲ出シテ  
 吾ヲ大水ノ激流ヨリ舉ゲ吾ヲ衆敵ノ内ヨリ救ヘリ  
 此時ニ至リだびどハ己ニ内亂ヲ平ゲ外寇ニ勝チタルヲ以  
 テ心思自ラ傲慢ニ傾キ天神ノ明命ナクシテいまらえらる人  
 ノ人口調査ヲ爲シヤだノ種属ニ於テハ兵ニ任ユル者五十

万人ヲ得、他ノ種屬ニ於テハ兵ニ任ユル者八十万人ヲ得タリ然ルニ其ヨリ久シカラズシテ豫言者ガト来リ王ニ神命ヲ傳テ曰ク天神將サニ三罰ノ内其一ヲ以テ陛下ヲ罰セントス陛下之ヲ撰ベヨ三罰トハ即チ七年ノ飢饉、三月ノ戦争及ビ三日ノ疫癘ナリトだびど王答テ曰ク吾ハ猛惡ナル人類ノ手ニ死センヨリモ寧ロ仁恤ナル天神ノ手ニ死セント依リテ以テ三罰ノ内疫癘ヲ撰ベリ是ニ依リテ疫癘いをらえる國ニ起リ忽ニシテ七万人ヲ殺セリだびど病死者ノ多キヲ見、叫ンテ曰ク天神ヨ吾一人惡事ヲ爲シタルヲ以テ罪ハ吾身一人ニ在リ願クハ無罪ノ人民ヲ許シテ吾身一人ヲ罰セヨト

だびど晩年ニ至リ後々悲嘆ノ事起レリだびどガ諸子ノ内

ニテ最モ年長ケタル者ハあどよあト云ヒ大將トよあふ及ビ大祭司あびあさるノ助力ヲ得テ王位ニ登ラントセリ然ルニ天神ベさべーノ第二子さろもんヲ立テ、太子ト爲サントコトヲ命ゼリ是ニ依リテだびどハ長子あどよあノ陰謀ヲ聞クヤ否人民ヲ集メ其前ニ於テさろもんヲ立テ、太子ト定メ以テ陰謀ニ答ヘリ

然ルニだびど將サニ死セントスルニ當リ悲哀ノ情ヲ辭ヘテ曰ク

天神ヨ願クハ吾願ヲ聞ケ○吾ガ歲月ハ風ニ散ズル烟ノ如クニ散リ吾ハ太陽ノ枯ラス野草ノ如クニ枯レリ○鵲ノ鳴ハ寂寥ノ地ニ住ミ夜鳥ハ零落ノ場ニ住ム如ク吾モ亦々悲哀ノ中ニ老セリ○吾カ食物ハ灰ニシテ吾ガ飲物ハ

涙ナリ是レ天神吾ヲ初メニ助ケテ吾ヲ終ニ破リタレバ  
ナリ○吾ガ歲月ハ影ノ如クニ過ギタリ吾ハ弱リタル草  
ノ如クニ凋ムモ天神ヨ至尊ハ永久ニ支配ス  
尚ホ聖書ノ中ニいまらえる國有名ノ聖詠者だびどガ臨終  
ノ語アリ其語ニ曰ク

聖君主アリテ朝日ノ如クニ登リ曇雲ハ其光ノ前ニ散ジ  
植物ハ雨露ヲ得タル土地ヨリ生ゼン吾家モ亦タ斯ノ如  
ク天神ノ庇護ヲ得ン天神曾テ吾ト永久ノ同盟ヲ爲シタ  
レバナナリ

だびど死期ノ至リタルヲ知り諸元老ノ前ニ於テ其人民ヲ  
祝シ且ツ之カ爲メニ天神ヲ祈レリ其ヨリさるもんヲ臥床  
ノ傍ニ呼ビ語リテ曰ク愛子ヨ吾ハ將サニ内体ノ行ク可キ

道ニ赴カントス汝ハ強者ト爲リテ人タルノ道ヲ忘レヌ神  
道ヲ行フテもいむノ書ニ依リ天神ノ法ヲ守レト其後だび  
どハせめいノ無禮及ビヒよあふノ殘忍酷薄ヲ惡ミさるも  
んニ遺言シテ痛ク此二人ヲ罰セシメ天年ヲ以テ終ヘシメ  
ザランコトヲ命ゼリ

其ヨリ轄クニシテだびど多ク春秋ヲ積ミ人間ノ榮ヲ極メ  
テ祖先ト共ニ永眠セリだびどハえぶろん府ニ於テ支配ス  
ルコト七年ぜりざるむ府ニ於テ支配スルコト三十三年ニ  
至リ其薨ジタルハ七十歳ノ時ニテぜりざるむ府ニ葬ムラ  
レ其墳墓ハ聖人ぜろーむノ代マデ存在セリ

第十三章

○さろもんノ事

一さろもんノ嚴格及び裁判ノ事

さろもんハ二十歳ニノ王位ニ登レリ此時ニ當リ異母兄あ  
どよあナル者大祭司あびあたる及び大将トよあぶと結ビ  
將サニ亂ヲ起サントシテさろもんニ迫リ父王だびどが最  
終ノ妃ニテあびざぐト云フ美人ヲ請ヒ婦ト爲サントスル  
ニ至レリ茲ニ於テさろもん豫メ陰謀ヲ防ガンガ爲メ嚴格  
ノ所置ヲ爲シテあどよあ及びよあぶノ二人ヲ殺シあび  
あどよあヲ放逐セリ其ヨリシテさどくハ大祭司ノ職ヲ得バ  
あいはハ大将ノ任ヲ得タリハあいはハ神廟ノ下ニ於テヒ  
よあぶヲ殺シ又だびど王ノ宣告ニ從ツテせえいヲ殺シ

さろもんニ  
婦人ノ訴訟  
ヲ判スル  
圖



タル者ナリ

新王をろもんハ嚴格ノ手段ヲ施シテ已ニ政府ノ基礎ヲ固  
メタルモ尚ホ同盟國ニ依頼シテ益々之ヲ強固ナラシメン  
ガ爲メはトぶと國王ノ王女ヲ娶レリ又タ宗教ニ依テ之ヲ  
聖清センガ爲メ當時いほらえる國ニ於テ獻物ヲ爲ス可キ  
諸丘ノ中ニテ最高ノ場所がハとんノ地ニ赴キ千頭ノ犧牲  
ヲ以テ燔祭ヲ捧ゲリ其夜天神夢ニ於テさろもんニ見ハレ  
テ宣クさろもんヨ汝ハ汝が欲スル所ノ物ヲ以テ我ニ望メ  
我ハ汝ニ其物ヲ與フ可ケレバナリト次テさろもんハ天神  
ニ請フニ賢明ヲ以テセリ天神さろもんニ與フルニ徒リ賢  
明ヲ以テセズ併セテ權カヲモ之ニ與ヘリ  
此時ニ當リ微賤ノ二婦人アリ采リテさろもん王ノ前ニ出

テ王ノ裁判ヲ請ヘリ是ヨリ先キ此ニ婦人ハ居ヲ同フシテ  
 一家ニ住ミ殆ント同日ニ於テ各々一男子ヲ生メリ然ルニ  
 此内一人夜中過チテ其子ヲ壓殺セルヲ以テ奸策ヲ設ケ同  
 居婦ノ子ヲ盜ミテ之ヲ抱キ己カ死子ヲ以テ同居婦ノ懐ニ  
 置ケリ己ニシテ天明ニ至リタルヲ以テ活子ノ實母起キテ  
 其子ヲ見ルニ不思議ニモ死シ居タルヲ以テ熟ク之ヲ考ヘ  
 己ガ子ニアラザルヲ認メ死子ノ實母ガ奸策ヲ悟リ大ニ之  
 ト争ヒ遂ニ王ノ前ニ至レルナリ斯ノ如キ訴訟ハ原被兩告  
 ノ外他ニ証據人ノアル在リテ舉証スルニアラザレバ大ニ  
 其裁決ニ苦メリ茲ニ於テさるもん番卒ニ命ジテ曰ク其活子  
 ヲ斬リテ二部ニ分チ其一部ツ、ヲ以テ各婦人ニ與ヘヨト然  
 ルニ活子ノ實母ハ其子將ニ目前ニ於テ殺害ニ遭ントスル

ヲ見親子ノ情黙シガタク涙ヲ振ヒ叫シテ曰ク陛下ヨ願ク  
 ハ其子ヲ斬ルコトナク全体ヲ以テ吾ガ訴訟對手ニ與ヘ玉  
 ヘトさるもん王之ヲ聞キ復タ命ジテ曰ク實母ハ必ラス此  
 婦人ナリ其子ヲ以テ之ニ與ヘヨト忽チニシテ王ノ裁判ハ  
 いすらえる全國ニ廣マリ人々王ノ賢明ヲ稱シテ神靈之ヲ  
 助クルト云ヒ大ニ畏敬ヲ爲セリ  
 二さるもんノ權力及ヒ富有ノ事

此時ウ、ふらつと河ヨリエトぶと國ノ急流ニ至ルマデさ  
 るもんノ名ヲ聞キ畏敬セザル者ナキニ至レリ且ツ附屬ノ  
 諸國ハ相次テ貢物禮物等ヲ贈りさるもんヲシテ内國民ヲ  
 苦マシムルコトナクいさるる全國ニ未曾有ノ華美ヲ盡  
 サシメタリ蓋シ嚴法アリテいさるる全國ヲ十二州ニ分

予各州ヲノ一月間ツ、順次ニ王室ノ費用ヲ出サシメ浪リ  
 ニ加稅セザリシヲ以テナリ斯ノ如キ良政府ノ下ニ在リシ  
 ヲ以テいもらえる種屬ニ於テモじだノ種屬ニ於テモだん  
 ノ地ヨリべるさべーノ地ニ至ルマデハ人々富有ノ中ニ在  
 リテ大平ヲ樂ミ安然トノ葡萄園ノ中若クハ無花菓樹ノ下  
 ニ生活セリさるもんハ又々紅海岸ニ添ヒいじめー國端ニ  
 於テえらと及ビあトよんがべーノ二港ヲ有スルヲ以テ  
 此處ニ一艦隊ヲ作ラシメちる府産ノ諸船長ヲノ其艦隊ヲ  
 率ヒをひる國ニ行キテ金粉、香物、奇木、奇石ヲ求メシメタリ  
 是ヲ以テさるもんハ聖書ニ云ヘルが如ク此時ニ當リゼリ  
 ざるむ府ニ於テ多ク金銀ヲ集メテ砂石ノ如ク多カラシメ  
 又タリパン山ノ奇木ヲ得テ野木ノ如ク多カラシメタリ

三大堂建立ノ事

さるもん己ニ夥多ノ財寶ヲ集メタルヲ以テ大堂建立ノ業  
 ヲ起セリ此時ちる國王いらんハ父王だびどノ世ニ於ケル  
 が如クさるもんトモ亦タ相親ミ居タルヲ以テさるもんヨ  
 リ年々小麦二万升并ニ食油二萬升ヲ贈ラレタリ茲ニ於テ  
 いらん王ハ此恩ニ報ヒンが爲メ必用ノ材料ト工妙ノ職工  
 ヲ送り建築業ヲ助ケシメタリ大堂ノ建築ハ廣大壯麗ヲ極  
 メタルヲ以テ材木ヲ運搬センが爲メリパン山ニ至リタル  
 者ハ七万人アリ岩石ヲ斬ランカ爲メ山間ニ入りタル者ハ  
 八万人アリ之が勞働ヲ監督スル者三千六百人アリテ業ヲ  
 始メテ以采七年ノ後ニシテさるもんハ衆民歡呼ノ中ニ在  
 リテ盛ニ大堂ノ捧呈式ヲ執行セリ



此時天神復々さるもんニ現ハレテ宣クさるもんヨ汝ハ我  
 名ヲ不朽ニ定メンガ爲メ大堂ヲ建テ、我ニ呈セルヲ以テ  
 我之ヲ嘉納ス汝若シだびどノ如ク我命令ヲ守ラハ我、汝ノ  
 種屬ヲ助ケテいもらえる人ヲ支配セシメン然レ汝若クハ  
 汝ノ子孫ニ於テ外國神ヲ信仰スルガ如キコトアラバ我、汝  
 が我が爲メニ建テシ大堂ヲ救ジテ速ク退ケン其時ニ至リ  
 大堂零落ノ前ヲ過グル者ハ皆止マリテ云ハン天神ハ何ノ  
 故ヲ以テ斯ノ如ク人民及ビ大堂ヲ毀チタルヤト人アリ答  
 テ云ハン此人民ハ外國神ニ歸スルガ爲メ其真神ヲ棄テタ  
 ルヲ以テナリト  
 さるもんハ天神ノ大堂ヲ建テタル後チ又々其身ノ爲メ王  
 城ヲ建テタリ王城モ亦々華美ヲ盡シ就中玉坐ノ如キハ總

象牙ニシテ之ヲ掩フニ純金ヲ以セリ且ツ五百ノ金楯ヲ作  
 リ衛卒ヲシテ之ヲ玉座ノ前ニ持タシメタリ其後さるもん  
 ハ牆壁ヲ以テせりざるむ府ヲ圍ミ砂漠ニ於テえせしるま  
 せしど。バラと。ばるるノ諸府ヲ建テ又々村落ノ外壁ヲ有  
 セザルモノアレバ外壁ヲ設ケテ之ヲ圍ミ戰車ヲ備へ騎兵  
 ヲ出スノ府アレバ又々之ヲ固メリ

四さバ國女王ノ事

當時さバ國女王ハ東方諸國ニ在リテ有名ノ人ナリシガさ  
 ろもん王ノ芳名ヲ聞キ難問ヲ出シテ之ガ智力ヲ試ント欲  
 シあらびや國ノ樂土ヲ立チ駱駝ニ金銀、寶石、諸香物ヲ乗セ  
 来リテさるもん王ノ前ニ出タリ已ニシテ女王ハさるもん  
 王ト屢々問答ノ後、其聰明慧智ナルニ驚キ歸ニ臨ミ嘆シテ

曰ク陛下ノ賢明ハ遠ク世評ノ外ニ出タリ陛下ニ侍シテ其  
左右ニ在ル者ハ其幸ヒ云フベカラズト

五さるもん過失ノ事

然ルニさるもんハ神命ニ叛キテ外國婦人ヲ愛シ其弊風ニ  
陷ヒリ偶像神ヲ崇拜スルノ日至レリ茲ニ於テ天神役タ  
るもんニ現ハレテ宣ク汝ハ我が同盟ヲ守ラザルヲ以テ我  
ハ汝ガ王國ヲ分チテ之ヲ汝ガ臣下ノ一人ニ與ヘン然レ  
汝ガ父だびドノ在ルアルヲ以テ我ハ汝ノ身ニ於テ之ヲ爲  
サズ汝ガ子ノ王位ニ登ルヲ待タン且ツ我ハ汝ノ子ヲシテ  
盡ク王國ヲ失ハシメズニ種屬ヲ殘シテ汝ガ子ノ有ト爲サ  
ント

六さるもんニ叛キ亂臣蜂起ノ事

此日ヨリシテ萬事皆不幸ニ傾キ從屬ノ諸國ハ亂ヲ起シテ  
田侯ヲ圖ラントセリえどん王ノ族ニテあでーるト云フ者  
いとめー國ニ歸リいもらえる國王ト此國ノ占有ヲ争ヒ  
遂ニ勝チテいとめー國ニ止マレリらるんハ又タだま府ニ  
於テ王ト爲リ遂ニいとめー國內ニ於テモ亦タ叛亂起レ  
リ或日豫言者あひあ。さるもん王ノ大臣ニテぜろぼむト  
云フ者ニ遭ヒ己ガ合羽ヲ脱シテ之ヲ十二部ニ斬リぜろぼ  
あむニ語りテ曰ク汝ハ吾ガ合羽ノ十片ヲ取リテ之ヲ汝ノ  
有トセヨ蓋シ天神宣ヒタルコトアルヲ以テナリ其語ニ曰  
ク我ハ王國ヲ分チ其十種族ヲ以テ汝ニ與ヘン且ツ汝若シ  
我命ヲ守ラバ汝ノ族ヲシテだびドガ族ノ如ク強固ナラシ  
メント

此時さるもん王ハせほぼむヲ殺サント欲シタレトせほ  
 ぼむハ逃レテえじぶと國王せざつくノ傍ニ至リさほも  
 ん王ノ薨去スルマテ此處ニ止マレリさほもん王ハせほぼ  
 あむ遁走ノ後チ久シカラズシテ薨去セリ時ニ壽六十歳ニ  
 シテ王位ニ在ルコト四十年間ナリ  
 さほもん王ハ徒ニ富強ヲ極メタルノミナラズ久シク治平  
 ノ中ニ支配シタルヲ以テ心ヲ文學ニ傾ケ其名ヲ不朽ニ傳  
 ヘリ聖書ニ曰クさるもんハ三千ノ譬言ト五千ノ神歌ヲ作  
 リ又タ諸木ヲ論ジテリはん山ノ名木ヨリ石間ノ植物ニ至  
 ルマテ悉ク漏サズ鳥獸虫魚ニ於ケルモ亦タ然リさるもん  
 ハ之ヲ書キ其詳細ヲ盡セリ然ルニ此等ノ書ハ悉ク亡ビテ  
 世ニ傳リタル者ハ僅カニ箴言傳道書及ビ讚美歌アルノミ

年代略記 第六期

一王ノ下ニ十二種屬服従ノ事

此間ハ紀元前十一世紀ヨリ同十世紀ニ至ル百二十年間ニ  
 シテさゆるノ撰舉ハ紀元前一千零九十六年ニ當リ、さゆ  
 るノ薨去ハ一千零五十六年ニ當リ、だびどがト種屬ノ  
 王ト爲リタルハ一千零五十六年ニ當リ、いまぼせつと死  
 シテだびど一人王ト爲リタルハ一千零四十八年ニ當リ  
 だびど薨ジテさるもん即位シタルハ一千零十六年ニ當  
 リさほもんノ薨去ハ九百七十六年ニ當レリ

明治廿三年一月廿八日印刷  
同 年一月三十日出版

空彼五拾貳

譯者

熊谷 從吾

四谷荒木町廿七番地  
寄留

版權登錄

發行者  
兼印刷者

小野田 知二

四ッ谷荒木町廿七番地

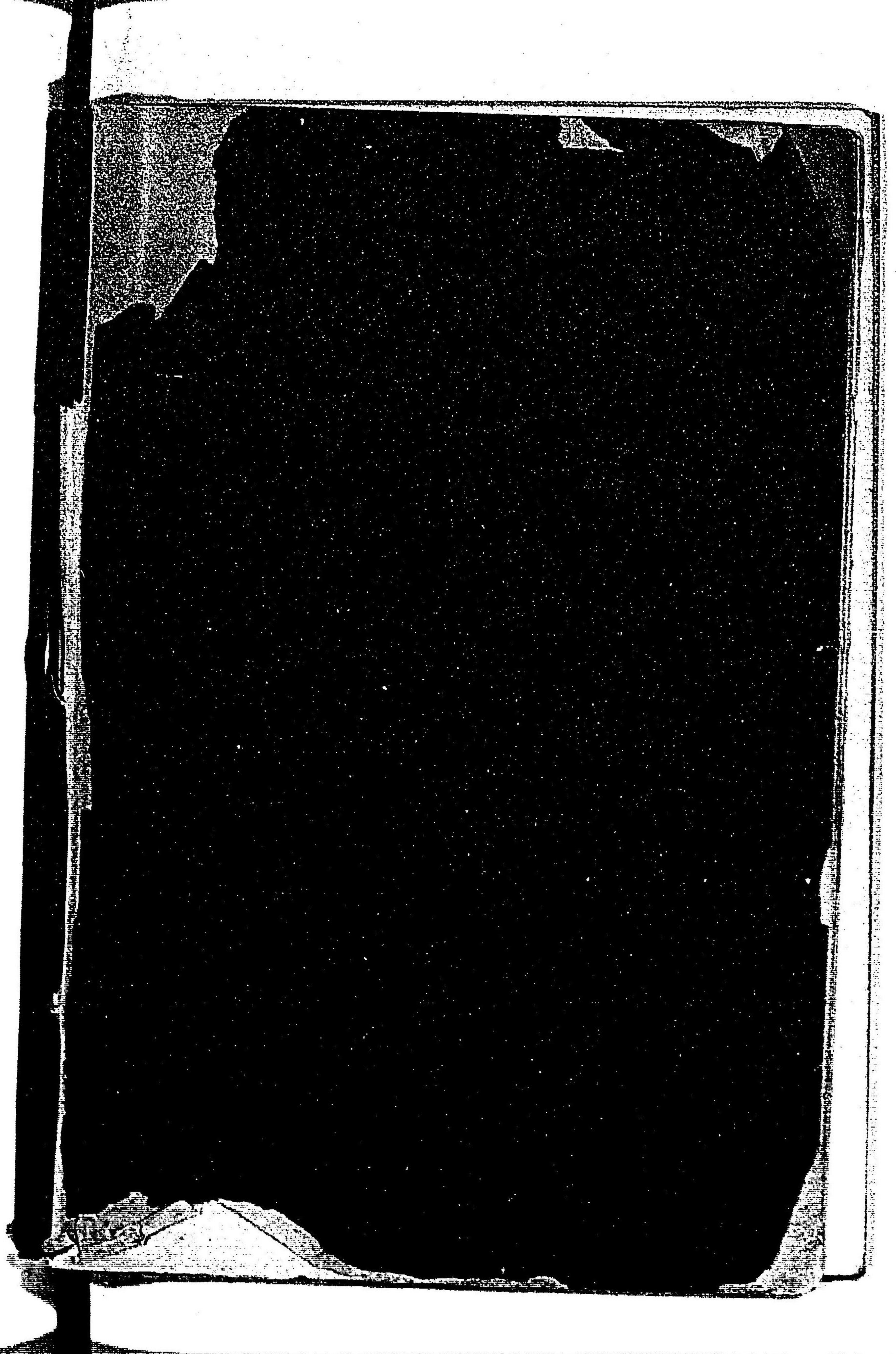
發行所

博愛堂

印刷所

同益社

定價五拾錢



020894-000-7

特18-758

聖教略史(絵入) 上巻

ビクトラル・ジュリュイ/著

M23

ABI-0728

